

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料7

平成29年 月 日

協議会名: 霧島市地域公共交通会議

評価対象事業名: 平成28年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
南国交通株式会社	溝辺地区におけるコミュニティバスの運行 (1) 竹子三縄線 (2) 麓線 (3) 空港崎森線 (4) 竹子・有川・空港線 (5) 崎森・麓・空港線		A 計画どおり適切に実施した。 A 計画どおり適切に実施した。 A 計画どおり適切に実施した。 A 計画どおり適切に実施した。 A 計画どおり適切に実施した。	B 5路線中4路線において目標を達成できなかった。なお、「竹子・有川・空港線」及び「崎森・麓・空港線」は1便当たり利用者数が特に少なく、路線の必要性について検討を行う必要がある。 B B B A	
鹿児島交通株式会社	牧園地区におけるコミュニティバスの運行 (1) 霧島牧園線	①地域へ出向き地域公共交通に関する座談会を開催し、ニーズ把握及び利用促進に努めた。 ②路線ごとの収支率、1便当たりの乗降客数を把握した。	A 計画どおり適切に実施した。	A 本路線は、主に、県立霧島高等学校部活動生徒の霧島地区方面への帰宅便として運行しており、生徒数は減少傾向にあるものの、目標についてはやや上回った。	●平成27年度に策定した霧島市地域公共交通網形成計画に基づき、運行ルートの見直しや路線バスとの乗継の利便性の向上を図る。 ●地域公共交通の利用促進対策を講じる。
三州自動車株式会社	福山地区におけるコミュニティバスの運行 (1) 福沢線 (2) 福地・池之谷線 (3) 福山線 (4) 比曾木野線 (5) 佳例川線 (6) 福地線(スクール対応) (7) 福沢線(スクール対応)	③公共交通マップを作成中	A 計画どおり適切に実施した。 A 計画どおり適切に実施した。 A 計画どおり適切に実施した。 A 計画どおり適切に実施した。 A 計画どおり適切に実施した。 A 計画どおり適切に実施した。 A 計画どおり適切に実施した。	B 7路線中3路線において目標を達成できなかった。特に、「佳例川線」は1便当たり利用者数が1.0人を下回っており、路線の必要性又は他の交通モードへの転換について検討を行う必要がある。 B B B B B A	①公共交通啓発チラシや広報誌等の活用 ②交通結節点における分かりやすい案内表示や情報提供等
AT交通株式会社	霧島地区永水地域におけるデマンド交通の運行	地域公共交通網形成計画を策定し、ふれあいバス及びデマンド交通のサービス見直しに向けた方針を定めた	A 計画どおり適切に実施した。	B 往路便、復路便ともに利用者が極端に少ない便が存在したことから、利用者	
有限会社中村タクシー	溝辺地区有川地域におけるデマンド交通の運行		A 計画どおり適切に実施した。	B ニーズに沿った運行の見直しを検討する必要がある。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

平成29年 月 日

協議会名:霧島市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域公共交通調査等事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>【事業内容】 1. 地域公共交通の利用促進に向けた住民座談会の開催 ①地域公共交通の利用促進や地域に最適なふれあいバスの運行形態等に関する地域の意見を聴取することを目的に住民座談会を開催 ②各地域ごとの住民ニーズの整理 2. 公共交通マップの作成 ①市内の公共交通網が網羅された公共交通マップを作成 (現在作成中、平成29年3月末完成予定) ②作成したマップを市内の全世帯に配布 3. 計画の達成状況等の評価のための地域公共交通会議の開催</p> <p>【結果概要】 1. 住民座談会を開催し、次のような成果が得られた。 ①市の公共交通の現状について地域住民と情報共有を図ることができた。 ②地域への公共交通の利用促進気運を醸成することができた。 ③座談会の結果、住民ニーズを次のように整理できた。 <バスの運行ルート、時刻等に関すること> ・週の運行回数は少なくしてでも、1日当たりの増便を希望 ・旧町境を越えた運行 ・用務先での適正な滞在時間のための運行ダイヤ見直し ・路線バス、JR等との乗り継ぎを考慮した時刻の見直し ・医療機関等、主要施設へのアクセス改善 ・市街地へのアクセス改善 <その他> ・デマンド交通の導入 ・コミュニティバス等のPR強化 ・バス待合環境の改善(バス停へのベンチや上屋の設置) ・コミュニティバスを小さい車両(10人乗りなど)へ変更 2. 市内の公共交通を網羅した公共交通マップを作成できた(H29.3月末完成予定)</p>	<p>A 計画どおり事業は適切に実施されている。</p>	<p>基本方針及び基本目標を踏まえ、具体的事業内容等について検討を行うこととする。</p> <p>【基本方針】 霧島市が目指す“暮らしやすい・訪れたいまちづくり”に向け、高齢者や子育て世代、学生等の交通弱者にやさしい交通環境の実現と次世代に継承できる交通まちづくりを前提に、多くの人をまちに呼び込み、“誰もが分かりやすく、安心して外出(移動)できる”地域公共交通網の形成を目指す。</p> <p>【基本目標】 ① 暮らしやすいまちづくりの実現に向けた、公共交通の見直し等による生活利便性の向上及び地域間連携の推進 ② 訪れたいまちづくりの実現に向けた、公共交通の見直し等による国内外の観光客の観光周遊の促進 ③ 限られた資源・予算で最大限の効果を上げる、効率的・効果的な地域公共交通の運行 ④ 地域公共交通の持続的な運行のため、利用促進と需要創出に地域全体で取り組むことで、地域公共交通を「創り上げ、守り、育てる」気運の醸成を図る</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成29年 月 日

協議会名:	霧島市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市は、交通空白・不便地域に居住する高齢者や身体障がい者、児童・生徒等の交通弱者等に配慮した輸送サービスの整備を行うことを目的に、平成20年4月からふれあいバスを運行している。</p> <p>また、ふれあいバスの利用者が少ない地域における新たな移動手段として、平成23年10月から霧島地区永水地域、平成24年12月から溝辺地区有川地域において、デマンド交通実証運行を開始し、高齢者等の交通移動手段を拡充するとともに、地域住民の利便性の向上を図ってきたところである。</p> <p>ふれあいバス等は、高齢者等を中心に、生活交通路線として必要不可欠であるが、人口減少や自家用車の普及により利用者は減少を続け、収支悪化により市の財政負担も増加している等、大きな課題を抱えているといえる。</p> <p>このようなことから、今後も継続して、ふれあいバス等の路線を維持・確保するとともに、中山間地域の活性化を図ることを目的に、国の地域公共交通確保維持改善事業を活用するものである。</p>